



ま ちかど インタビュー

稲作2年目を迎えて おいしいお米を収穫できるよう

町は原発事故の影響で、一時、コメの作付けを全面的に自粛しましたが、試験栽培の結果から安全性に問題はないとして、自粛が全面的に解除され、今年は去年の作付け再開以来、2度目の田植えとなりました。
稲作に対する想いを伺いました。



おおわだ ひさし さん
大和田 久司さん
(下北迫・東町)

から、農業の復興に頑張りたい。
広野町の農業なくして双葉郡の農業再生はない！

昨年度は無我夢中での農作業でした。
本格的作付2年目の今年は、少し余裕ができ、面積も増やしてみた。
しかし町全体を見ると田畑の荒廃が目立ち、震災以前の風景に戻したい。
除草や農地の保全のためには、町との連携をとりな



風にそよぐ緑のじゅうたん



い がり かず や さん
猪狩 和也さん
(下浅見川・桜田)

私は、昨年度より稲作を再開しました。

再開にあたり、機械が津波により流失してしまい機械購入からの始まりとなりました。

昨年は、2年間休耕していたため、ほとんど倒伏してしまい収量および品質があまり良くありませんでした。

今年は、安全でおいしい良質米を収穫できるように努め、1日でも早く風評被害がなくなるようお願いしたいと思います。

編集後記

平成26年の梅雨は、7月に入っても続いています。

気温もあまり高くない状況ですが、稲の生育は順調でしょうか。

田んぼでは、にぎやかな力エルの声が聞こえてくるころもあり、昔ながらの季節感を感じています。

広野町の復興がどの程度進んでいるか、帰還した人も、そうでない人も、大きな関心があると思います。

一番問題なのは商業施設がたりないこと、高齢者世帯だけの帰還では生活が成り立たないことだと考えます。

また、原発事故の収束がうまく行っていないことや賠償への不信感が根底にあります。

6月議会後には、

石原環境大臣の「金目」発言があり、双葉郡・県民の怒りをかいました。

私たちは原発事故を通じて、国策がいかに私たちの生活を左右するか、を実感したのではないのでしょうか。

今回、町の議員定数を考える特別委員会を設置しましたが、地方の声の発信力も問われていると思います。

(畑中 大子)

発行・編集責任者

議長 鈴木紀昭

広報委員会

委員長 渡邊正俊

副委員長 北郷幹夫

委員 塩 史子

委員 渡辺久長

委員 門馬 巧

委員 畑中大子

委員 小磯利雄

次の定例会は9月です